

2019年度 入社式を挙

愛知製鋼株式会社(本社:愛知県東海市、代表取締役社長:藤岡高広)は、4月1日(月)、弊社本館の大会議室において「2019年度 入社式」を執り行い、新入社員93名と役員、労働組合代表など関係者約300人が出席しました。

式典前に、新入社員への歓迎の思いを込め、海外事業体7社および海外研修中の社員からのビデオレターが放映され、和やかなムードで式典が始まりました。

今年の入社式は、**キーワードである「変革」**に相応しく、自動車業界が100年に一度と呼ばれる大転換期を迎える中、新入社員に社員としての自覚と責任、希望を持ってもらうとともに、高いグローバル意識や当事者意識を醸成する絶好の機会としました。

<ポイント>

- ① **社長と新入社員の対話による双方向コミュニケーション**を図りつつ、自ら発言することで「I Will」の当事者意識を醸成
- ② **新入社員が学生時代にやり切ったことを発言**し、愛知製鋼社員として新たなスタートを切るうえで大切な、何事も最後までやり抜くことの大切さを共有(「画竜点睛」の考え方)
- ③ **入社5年目までの若手社員全員が参加**し、新入社員の発言を聞き、自らも初心に帰ることで、改めて社員としての自覚と責任を持つ

<社長メッセージ要旨>

新入社員の皆さんが、この愛知製鋼を選ばれたことに感謝するとともに、本日から当社で、社会人としての第一歩を踏み出す皆さんの新しい門出を心からお祝い申し上げます。

現在、我々の主要製品である特殊鋼は旺盛な需要があるものの、中国経済の減速や過去にない原材料・副資材の高騰などにより、足元の収益は厳しくなることが想定されています。また、大口需要家の自動車業界では、100年に一度の大転換期を迎えており、次世代車の普及が加速することで、今後客先の需要が減少することが見込まれています。

当社がこの厳しい時代を乗り越えていくために、私たち一人ひとりが絶対に生き残るんだ、という強い意思を持つことが不可欠です。そして、日々の生産活動における原価低減活動はもとより、スマート社会の実現に向け、既存ビジネスの発想転換による更なる需要開拓と、高い素材技術を活かした新ビジネス伸長を図ることが強く求められています。

古いことわざに、「画竜点睛」というものがあります。これは、物事を完成させるために最後に加える大切な仕上げ、という意味です。つまり、皆さんから発言いただいた内容にもあったように、「I Will」の**当事者意識をもって、何事も最後までやり抜くという意思を持って取り組む**ことが非常に重要です。このパラダイムチェンジに対応するためには、**振り子を大きく振って、「現地現物」**で考え行動することで、今までと次元の異なる新しい世界に果敢に挑戦していくことが必要です。

そして、これからの時代の潮流を見極め、「**自分が変わる、まわりを変える**」ことに本気で取り組み、**心を一つに、力を一つに、「変革(Transformation)」**をやり遂げることで、ともに年輪的成長を実現していきましょう。

最後に、愛知製鋼の社員として新たな一歩を踏み出した皆さん一人ひとりがイキイキと働き、そして周りを巻き込んで、会社を変えていく主役になってくれることを心より祈念し、私の挨拶といたします。



新入社員の決意に耳を傾ける藤岡社長(写真中央)

以上